

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)1月30日

F 24 C 15/04

7116-3L

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 調理器の扉構成

⑯ 特 願 昭59-140950

⑰ 出 願 昭59(1984)7月6日

⑱ 発 明 者	岡 村 健 治	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	植 田 隆 徳	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	谷 岡 勝 也	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑳ 出 願 人	松下電器産業株式会社	門真市大字門真1006番地	
㉑ 代 理 人	弁理士 森本 義弘		

明 細 書

1. 発明の名称

調理器の扉構成

2. 特許請求の範囲

1. 表板の外周を後方に折曲して形成した外周枠のうち上部および両側外周枠にさらに前記表板と平行方向へ折曲した折曲片および係止爪を設けるとともに、前記表板の中央部に内周縁が後方に直立つ開口を設けた表扉部材と、表板の上部中央部と下部に前方に折曲する折曲片を設け、かつ前記表板の上部両側部から立上る押さえ片を設けるとともに、前記表扉部材の下部に嵌合してこの表扉部材の係止爪によって保持される窓扉部材と、前記表扉部材の折曲片および開口縁立部と前記表扉部材の上部折曲片および押さえ片との間において介設固定されるガラス板とを備えた扉を構成し、この扉を前記表扉部材を貫通して設けたリンク軸を介して調理器の調理室前部開口に開閉自在に取付けた調理器の扉構成。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は調理器の調理室前部開口を開閉するための扉の構成に関するものである。

従来例の構成とその問題点

第1図に従来の調理器の扉構成を示す。図において、1は調理器、2は調理器1の外筐体で、左右一対の側板3と、外板4等から構成されている。5は外筐体2内に組込まれた内筐体で、左右一対の側板6と、反射板(背板)7と、底板(図示せず)等から構成され、前面に開口を有する調理室9を形成している。10は調理室9の中に設けられた鍋で、その両側を側板6に設けたガイド溝11に挿入して、前後に開閉自在とされている。12は調理室9の前部開口に開閉自在に取付けられた扉、13は扉12の両側部と鍋10の両側部とを連結する左右一対のリンク金具で、扉12を開けるとこのリンク金具13を介して鍋10が前方に引き出される構成となっている。なお、鍋10の上下には発熱体(図示せず)が配設されている。

第2図、第3図に扉12の詳図を示す。図において、14は表扉部材で、表板15の外周を後方に折曲して外周枠18を形成するとともに、表板15の中央部に内周縁が後方に縁立つ開口17を設けることによって構成されている。18は裏扉部材で、裏板19の外周を表扉部材14の外周枠16に内嵌させるために前方に折曲するとともに、裏板19の中央部に内周縁が前方に縁立つ開口20を設けることによって構成されている。この場合、裏板19の開口20は、コーナー部が狭く、その他の部分が覆目の縁立でとされている。また、コーナー部にはアールが付けられている。21は表扉部材14の開口17縁立部と裏扉部材18の開口20内周面間に介装固定されたガラス板、22は表扉部材14と裏扉部材18の上部を貫通して両者を一体化するねじで、表扉部材14から飛び出した部分に把手23が取り付けられている。なお、表扉部材14と裏扉部材18の下部には係止孔とこれに噛み合う爪（共に図示せず）が相対向して設けられ、前記ねじ22と共働するように図られている。24は裏扉部材18を貫通して設けられたリン

ク軸で、扉12はこのリンク軸24を介して調理室9の前部開口に取付けられている。

しかしながら、このような従来の調理器1の扉12の構成によると、裏扉部材18の開口20の上下、両側部でガラス板21を抑さえているので、開口20を大きく取ると、裏扉部材18の強度が弱くなるという問題があった。したがって、表および裏扉部材14、18の開口17、20を大きくとることができず、外部から調理室9内を見るときの透視面積が小さいものであった。また、裏扉部材18は表扉部材14と略同等の広さの部材を必要とし、材料費が高つくという問題があった。

発明の目的

本発明は上記従来の問題を解消するもので、調理室内が見やすくても安価に製作することのできる調理器の扉構成を提供することを目的とする。

発明の構成

本発明の調理器の扉構成は、表板の外周を後方に折曲して形成した外周枠のうち上部および両側

外周枠にさらに前記表板と平行方向へ折曲した折曲片および係止爪を設けるとともに、前記表板の中央部に内周縁が後方に縁立つ開口を設けた表扉部材と、裏板の上部中央部と下部に前方に折曲する折曲片を設け、かつ前記裏板の上部両側部から立上る押さえ片を設けるとともに、前記表扉部材の下部に嵌合してこの表扉部材の係止爪によって保持される裏扉部材と、前記表扉部材の折曲片および開口縁立部と前記裏扉部材の上部折曲片および押さえ片との間において介装固定されるガラス板とを備えた扉を構成し、この扉を前記調理器の調理室前部開口に開閉自在に取付ける構成としたものであり、これにより、表扉部材の開口を大きく取って調理室内を見やすくすることができるとともに、安価に扉を製作することができるものである。

実施例の説明

以下、本発明一実施例について図面に基づいて説明する。なお、第1図に示したものと同一構成のものは同一番号を付して説明を略する。

第4図～第7図において、25は調理室9の前部開口に開閉自在に取付けられた本発明に係る扉、26はこの扉25の表扉部材で、表板27の外周を後方に折曲して形成した外周枠28のうち上部および両側外周枠にさらに前記表板27と平行方向へ折曲した折曲片29および係止爪30を設け、さらに表板27の中央部に内周縁が後方に縁立つ開口31を設けることによって構成されている。32は表扉部材26の下部に嵌合して裏扉部材28の係止爪30によって保持される裏扉部材で、裏板33の上部中央部と、両側部と、下部に前方に折曲する折曲片34を設け、かつ裏板33の上部両側部から立上る押さえ片35を設けるとともに両押さえ片35からさらに後方に折曲するリンク金具取付用折曲片36を設けることによって構成されている。なお、裏扉部材32の両側には係止爪30の一つが挿入可能な係止爪挿入孔37が設けられている。38は表扉部材26の折曲片29および開口31の縁立部と、裏扉部材32の上部折曲片34および押さえ片35との間に介装固定されたガラス板、39は裏扉部材26の上部を貫通して設けられ

たねじで、表板27から飛び出した部分に把手40が取付けられている。41は裏扉部材32を貫通して設けられたリンク軸で、扉25はこのリンク軸41を介して調理室9の前面開口に取付けられている。なお、42はリンク軸41に介装されるばねで、扉25を開じる方向に付勢する働きをなすものである。

このような構成で、次に組立て手順について述べる。

先ず、表扉部材26にねじ39を介して把手40を取付ける。次に、裏扉部材32にばね42を介装したりリンク軸41を貫通して設ける。次に、表扉部材26の折曲片29と開口31の嵌合部の間にガラス板38を挿入し、この状態でガラス板38を裏扉部材32の上部折曲片34で支持し、かつ押さえ片35で押さえる。そして、表扉部材26の下部に嵌合した裏扉部材32を表扉部材26の係止爪30を抱き込むように折曲することによって裏扉部材32の係止を完了する。これにより、ガラス板38は、前面と上端部および両側部を表扉部材26で規制され、後面の両側下部と下端部を裏扉部材32で規制される。したがって、

確実、強固に固定される。

このように本実施における扉25の 成によると、裏扉部材32はガラス板38の下部のみを覆うのに必要な材料があればよいので、従来のものに比べ安価に製作できる。また、表扉部材26でガラス板38を覆うように構成しているので、表扉部材26を薄くしてもガラス板38の強度で補強されるため、その結果、表扉部材26も安価に製作できる。また、裏扉部材32はガラス板38の下部のみを支持しているので、表扉部材26の開口31は、裏扉部材32に係保なく広げることができ、ガラス板38の透視面積を広げることができる。したがって、調理室9内がよく見えるように構成することができる。

発明の効果

以上のように本発明によれば、表扉部材の開口を広くとっても強度上の心配がなく、また裏扉部材によりガラスの透視面積が減少されることもないので、広い透視面積が取れ、調理室内を見やすくすることができる。しかも、表扉部材はガラス板により補強されるので、薄くすることができ、

また裏扉部材もガラス板の下部のみを覆っているだけであるので、それぞれ少ない材料で構成することができる。したがって、安価に扉を製作することができる。

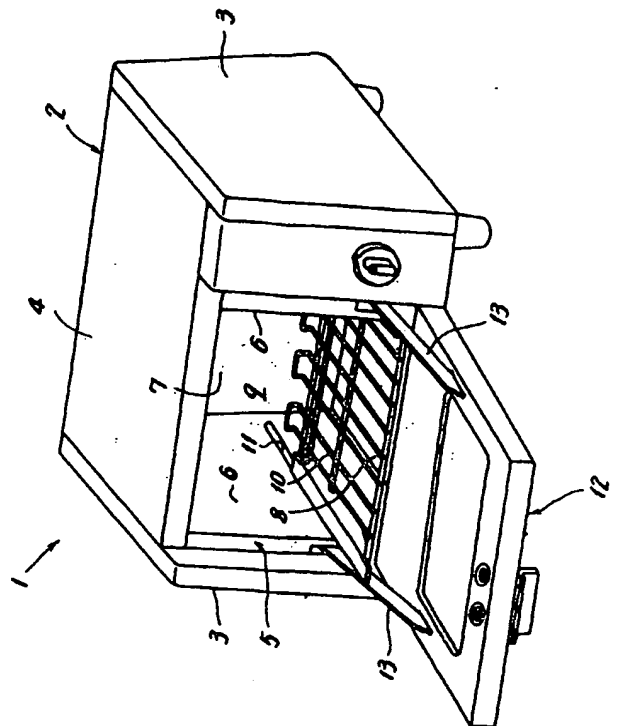
4. 図面の簡単な説明

第1図～第3図は従来例を示し、第1図は調理器の全体外観斜視図、第2図は扉の斜視図、第3図は同断面図、第4図～第7図は本発明の一実施例を示し、第4図は調理器の全体外観斜視図、第5図は扉の斜視図、第6図は同断面図、第7図は別分解斜視図である。

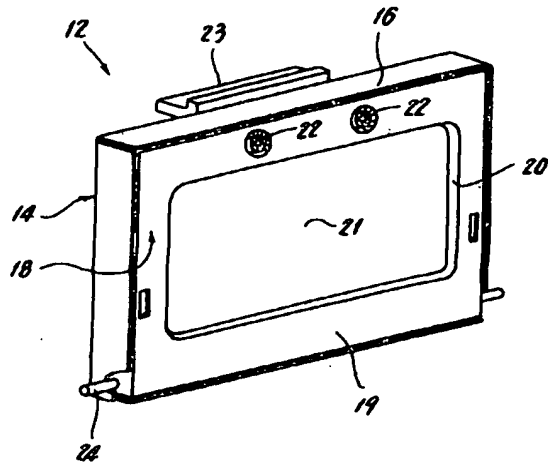
1…調理器、9…調理室、25…扉、26…表扉部材、27…表板、28…外周枠、29…折曲片、30…係止爪、31…開口、32…裏扉部材、33…裏板、34…折曲片、35…押さえ片、38…ガラス板、41…リンク軸

代理人 森 本 義 弘

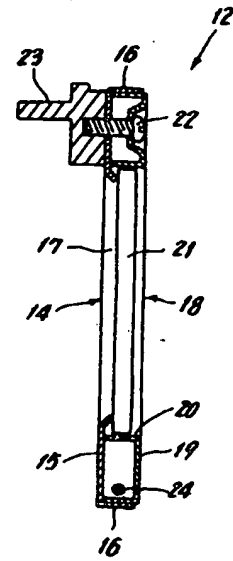
図1



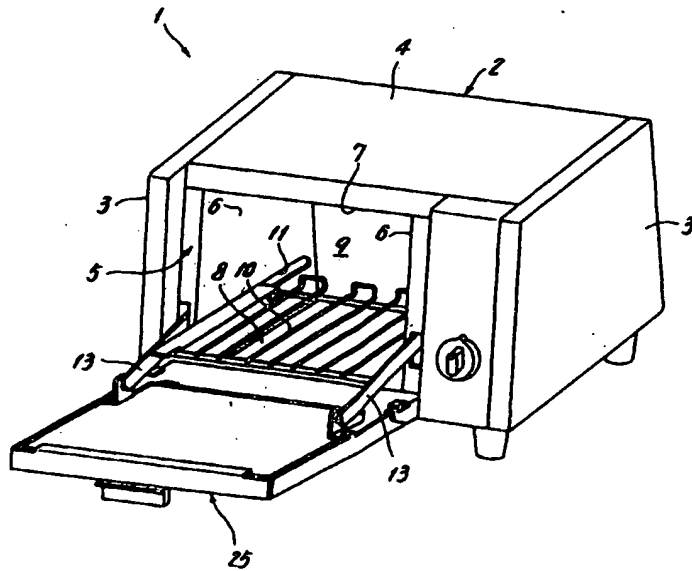
第2図



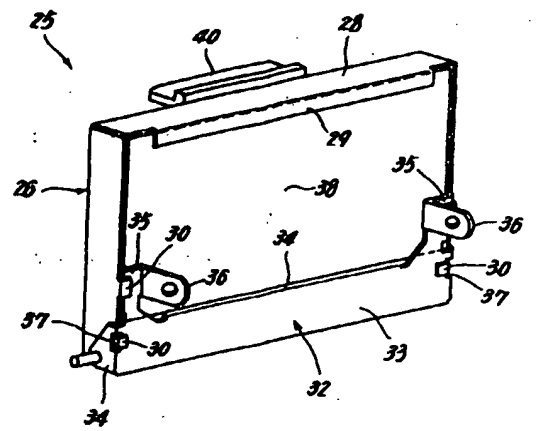
第3図



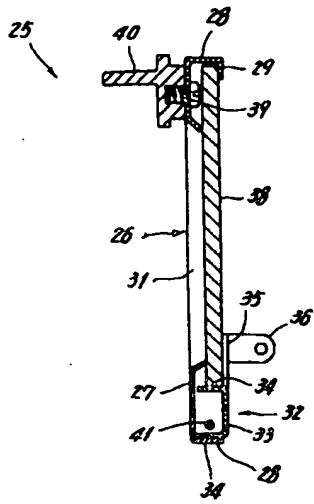
第4図



第5図



第 6 図



第 7 図

